

ご挨拶

創立70周年を期して



一般財団法人 日本科学技術連盟
理事長 佐々木 眞一

お蔭様で、一般財団法人日本科学技術連盟は、2016年5月1日をもって創立70周年を迎えます。これはひとえに、当財団を支えてくださった賛助会員をはじめ、多くの方々の温かいご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

当財団は、1946年の創立以来70年にわたり、産業界への経営管理技術（TQMなど）の普及を中核として、品質を支える人づくりを中心とした様々な事業を展開し、戦後の日本の品質管理の普及と発展に努めてまいりました。

戦争により荒廃、混迷する日本で、“安かろう・悪かろう”の代名詞と言われ、世界水準を大きく下回っていた日本製品が、品質管理の普及・発展とともに劇的な品質向上を遂げ、日本製品を国際的な競争力のあるものとしたばかりでなく、品質に関して日本を世界の指導的な立場にまで高めました。戦後復興を果たし高度成長の時代、長く続いた低成長時代、そして昨今のグローバルな競争時代に至るまで、日本の産業は様々な課題に直面し、これに対応してまいりました。

この10年を振り返りますと、世界金融危機（リーマンショック）、東日本大震災、国際的な地域紛争の激化など、企業を取り巻く経営環境は一層厳しさを増した不確実性の高い時代でありました。こうした時代においても、わが国の企業は質の高い製品やサービス、強い現場力、全員参加による継続的改善といった日本的ブランドの強みを維持し、企業の社会的責任や体質改善、顧客価値の創造、人材育成など品質経営の基盤づくりを地道に続けてきました。

現代の社会においては、研究や技術の急速な進歩により、企業・組織が生み出す製品やサービスはますます高度化、多様化しています。失われた20年の間に急速に進んだグローバル化への対応、技術力と経済力をつけてきた新興国の急迫、ビッグデータやIoTなどデジタル化への対応など、スピード感を持った対応が必要となる経営課題が山積しています。

経営環境の変化の速度が一段と高まる中、わが国の産業界が、今後も世界に誇る高品質の製品とサービスを向上し続けるためにも、技術の革新に取り組み、時代の要求する新製品開発、さらには安全・安心、環境への取り組みなど、果敢に変革に挑戦し、世界で競争力を発揮していくことが望まれるとともに、品質管理レベルの格段のブレークスルーが必須です。

日科技連は、70周年の節目にあたり、わが国の強みである「品質」を原点とする経営にさらに磨きをかけ、品質経営のマネジメント強化と人材の育成に寄与すべく邁進し、さらに産業界や社会の発展に役立つ事業に積極的に取り組んでまいります。

ご挨拶

日科技連 その後の10年



一般財団法人 日本科学技術連盟
専務理事・事務局長 小大塚 一郎

日科技連は、お陰をもちまして本年5月に、創立70周年を迎えます。

これも偏に、永年当財団の事業にご賛同いただきてまいりました賛助会員各社のご支援ご協力の賜物であり、さらには多くの産学の専門家、実務家のご協力によるものであります。ここに心から厚く御礼を申し上げます。

ご高承のとおり、“日科技連の歴史は日本の品質管理の歴史である”とまで言われているほど、わが国の品質管理活動に関与、推進に努めてまいりました。その始まりは1940年代に遡りますが、大きな転換期は1950年代かと思います。戦後のわが国の復興のために、米国の統計学者デミング博士を招聘し、産業界に統計的品質管理の有用性を示し、その普及のための事業を推進することから始まりました。その後、デミング賞、QCサークルの展開、そしてTQCからTQMへと、品質を経営の中核とした品質経営を実践する多くの企業・組織のたゆまぬ努力が、二度にわたるオイルショックやバブル崩壊後の日本経済を救い、品質立国への途を開き、世界の製品品質のリーダーシップをとるまでに至りました。日本ブランドの構築に大きな貢献をしてきたことは万人の認めることかと思えます。

直近のこの10年を振り返りますと、複雑化と多様化が一層進み、企業を取り巻く経営環境は大変厳しいものがあり、グローバルな視野がさらに求められております。日本企業がこれまでも増して高い国際競争力を維持していくためには、イノベーションを推し進めていくことが最重要課題かと思えます。

残念ながら、わが国企業にも、品質、安全・安心に関わる問題や不祥事が見られます。これらは、取りも直さず、継続的な品質教育の不徹底さに起因しているところが大きいということをおぼろげに言わざるを得ません。イノベーションを促進するためには、やはり、人材育成が最大の課題です。

日科技連は、今後とも、産・官・学のご協力を仰ぎ、わが国の産業界の発展に寄与すべく、TQMを中核とした経営管理技術の普及・推進に貢献いたしたいと考えております。今後とも関係者の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

日科技連役員の変遷 (2005年6月～2016年1月)

2016年1月1日現在

●現役員 *常勤

[会長]

第7代	奥田 碩	2004年3月	2006年6月
第8代	御手洗富士夫	2006年6月	2010年6月
第9代	米倉 弘昌	2010年6月	2012年3月
●第10代	坂根 正弘	2012年4月	

[理事長]

第11代	米山 高範	2004年6月	2005年12月
第12代	高橋 朗	2006年1月	2006年7月
第13代	浜中 順一	2006年8月	2009年6月
第14代	蛇川 忠暉	2009年6月	2014年6月
●第15代	佐々木 眞一	2014年6月	

[専務理事]

三田 征史	2004年6月	2013年7月	*事務局長
●小大塚 一郎	2013年8月		*事務局長

[理事] (就任/退任)

米山 高範 (1995年6月/2012年3月)	中村 満義 (2007年6月/2012年3月)
平野 拓也 (1999年6月/2007年6月)	蛇川 忠暉 (2009年6月/2014年6月)
前田 又兵衛 (1999年6月/2007年6月)	●小大塚 一郎* (2009年6月)
吉川 弘之 (1999年6月/2007年6月)	齊藤 莊藏 (2009年6月/2010年6月)
●狩野 紀昭 (2000年6月)	米倉 弘昌 (2010年6月/2012年3月)
高橋 朗 (2000年6月/2006年7月)	北野 昌宏 (2010年6月/2012年3月)
中島 邦雄 (2000年6月/2014年6月)	岡本 一雄 (2012年4月/2014年6月)
三田 征史* (2001年6月/2013年7月)	押味 至一 (2012年4月/2013年6月)
奥田 碩 (2004年3月/2006年6月)	●塩原 知道 (2012年6月)
三上 忠男* (2005年6月/2007年6月)	●小泉 博義 (2013年6月)
山岡 建夫 (2005年6月/2014年6月)	●小野寺 将人* (2013年11月)
御手洗富士夫 (2006年6月/2010年6月)	●大畑 丞* (2014年6月)
浜中 順一 (2006年7月/2009年6月)	●佐々木 眞一 (2014年6月)
岡部 弘 (2007年6月/2012年3月)	●照井 恵光 (2014年6月)
●坂根 正弘 (2007年6月)	●中島 宣彦* (2014年6月)
中村 道治 (2007年6月/2009年6月)	●町野 利道 (2014年6月)

[監事]

前田 光治 (1992年2月/2007年6月)	宮城 勉 (2009年6月/2015年6月)
藤井 昌典 (1995年6月/2009年6月)	●家氏 信康 (2015年6月)
●柘植 綾夫 (2007年6月)	

日科技連について

品質を支える人づくりを中心に 産業界の品質経営実現に向けた様々な事業を展開

1946年の創立以来、科学技術の進歩・発展をはかるために必要な諸活動を通じて、産業界に寄与することを基本方針とし、これを実現するために調査・研究・開発、大会・シンポジウム、教育訓練、国際交流、QCサークル活動（小集団改善活動）の全国的普及、技術相談および広報・出版などの活動を通じて、科学的な経営管理技術の普及・進歩・発展に努めている。

特に、経営管理技術、「品質管理」を中心とする各種の事業は、国内はもとより世界各国から注目を集め、高い評価を得ている。日科技連のコアである教育／セミナー事業をはじめ、デミング賞、日本品質奨励賞などの各種表彰事業、日本経済新聞社との協賛による「企業の品質経営度調査」など、企業の品質力向上に役立つ事業を幅広く提供している。

また、ISO 9000（JIS Q 9000）シリーズに基づく品質マネジメントシステムに関する審査員研修、および、品質、環境マネジメントシステムをはじめ各種審査登録業務を展開している。近年、ISMS 情報セキュリティマネジメントシステムやOHSMS 労働安全衛生マネジメントシステム、FSMS 食品安全マネジメントシステムなどへの拡大も積極的に進めている。



本部事務所ロビー



東高円寺ビル



大阪事務所・新藤田ビル

[本 部] 〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 4 階

[東高円寺ビル] 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1

[大阪事務所] 〒530-0003 大阪市北区堂島 2-4-27
新藤田ビル 11 階